

# 北野天満宮

Kitano-Tenmangu



## 北野天満宮とは

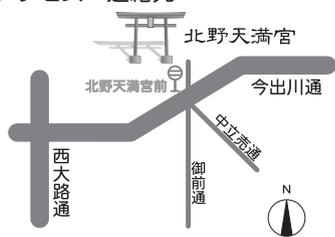
北野天満宮は菅原道真公をまつっている神社です。彼は藤原家の謀略によりあらぬ疑いをかけられたために九州へと左遷され、無念の内に亡くなりました。後に無実であったと認められ北野の地に祀られることになりました。これが北野天満宮のはじまりと言われています。

道真公は政治家としての高い事務処理能力のみならず、和歌の才能もあったと伝えられています。彼の歌の中でも有名な、左遷が決まり無念のうちに都を去ったときに詠んだと言われる歌をご紹介します。

こち東風吹かば にほひをこせよ 梅の花  
あはれ主なしとて 春を忘るな

道真公は能力の高さから、学問の神様として信仰を集めており、そのため天満宮には毎年多くの学生が参拝に訪れています。また、修学旅行などで集団祈禱を受けるケースもあるようです。

### アクセス・連絡先



市バス「北野天満宮前」下車すぐ  
※百万遍から203系統で約25分  
Tel: 075-461-0005 (代表)

## 梅～道真公の愛した花～

道真公は生前、梅の花を愛していたと伝えられています。さらに飛び梅伝説といって、先ほど紹介した歌にあった梅が道真公を偲び、都の自宅の庭から太宰府まで飛んでいったという話も残っています。このように梅は道真公と結びつきが強く、天満宮のシンボルになっています。その表れとして、境内には50種2000本の梅が植えられています。

## 牛～神様の使い～

道真公には牛にまつわる話がいくつか残されています。たとえば、誕生は承和12年(845)でそれは乙丑に当たること、命日が丑の月の丑の日であったことなどが伝えられています。また、亡骸を乗せた牛車が丑寅の方向へ進み、牛が歩みを止めたところで埋葬されたという話も伝えられています。このように牛は道真公と深い関係にあり、天満宮では神様の使いとされています。



▲境内にある撫で牛。自分の体の悪いところと同じところを撫でると治る、と伝えられる。

## 縁日・天神さん

道真公は誕生日が6月25日、命日が2月25日と伝えられています。天満宮ではこれにちなんで25日が縁日であり、毎月多くの参拝客が訪れています。中でも1月25日は「初天神」といって、他の月に比べ参拝客、出店の数、活気、どれをとっても特別なものになっています。京都の1月の風物詩。ぜひ訪れてみてください。



▲天満宮の縁日・天神さん。出店がずらりと並び多くの人が訪れる。

## 2月25日は…… ばいかさい 梅花祭

道真公の命日である2月25日には、梅花祭として祭礼が行われます。併せて、豊臣秀吉が催した北野大茶会にちなんで茶会も開かれます。年によっては梅の見頃と重なることもあり、多くの見物客で賑わいます。みなさんも訪ねてみませんか？

(えむいち)